土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　防地川　通常砂防事業に伴う測量等業務委託　その他河川　防地川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.1	**調査位置**	広島県尾道市防地町			**北緯**	34° 25′ 4.9022″
発注機関	広島県東部建設事務所三原支所			**調査期間**	2023年 2月 14日 ～ 2023年 2月 15日	**東経**	133° 12′ 32.8526″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 42.64m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 33°
総削孔長	7.00m					**使用機種**	**試錐機** 東邦地下工機 D1-B48
							エンジン ヤンマー NFD-12 **ポンプ** 東邦地下工機 BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
1	41.19	1.45		礫混じり砂		褐	rd2		第四紀	0.2m付近までは表土に相当。やや有機質である。 0.2m以深は旧耕作土または土石流堆積物に相当する粗粒土。礫分は φ10mm未満。細礫分が多い。砂分は細中砂が優勢するが、必ずしも粒度分布の悪いものではない。1m付近まで植物片の混入を認める。貫入試料の含水は低く、乾燥状態にある。
2	39.84	2.80		玉石混じり砂礫		淡褐	rd3			以下、3.60mまでは土石流堆積物に相当する。 玉石分は L=5～24cmで採取。 その他の礫分は中礫以下である。 マトリクスは粘土混じり～粘土質の粗砂からなる。 2mの貫入試料は高含水である。
3	39.64	3.00		シルト質砂		灰褐				きわめて高含水の砂質土。試料は自重で沈み、円形形状を維持できない。
	39.04	3.60		シルト混じり砂		灰褐	rd3			下方に粗粒化する砂質土で、中粗砂から粗砂・細礫主体へと漸移する。細粒分も下方に減じている。
4	38.19	4.45		風化花崗岩		褐灰			白亜紀	マサ状風化した基盤岩。コアは弱く固結した砂～礫状をなす。下方に固結度を増しており、最下部ではマサ状とは言い難い程度に固結している。DH級岩盤（軟岩I相当）に区分される。
	37.69	4.95		風化花崗岩		淡褐灰				核岩状に風化が弱まる。固結した短柱～柱状コアをなす。ただし、岩芯風化しており、コア肌は粗く、岩片は少し軟らかい。CL級岩盤（軟岩I相当）に区分される。
5	36.64	6.00		風化花崗岩		桃褐灰				再びマサ状風化部となる。上棒状コアをなし、コアを掘すると容易に崩れる。ほぐした試料は細礫～角礫状を呈する。DH級岩盤（軟岩I相当）に区分される。
6	36.44	6.20		風化花崗岩		白灰				礫～岩片状コア。岩片軟質で、貫入試験は辛うじて受け付ける。CL級岩盤（軟岩I相当）に区分される。
	36.09	6.55		弱風化花崗岩		白灰				15～20cmの柱状コアをなす。わずかの岩芯風化を伴い、コア肌は粗い。CM級岩盤（軟岩II相当）に区分される。
7	35.64	7.00		花崗岩		桃白灰				45cm柱状コアをなす。風化程度も弱まり、新鮮色に近い色調を示す。岩片も硬い。確認長が短いため、風化残りの可能性もある。層としての取り扱いには注意を要す。コアとしてはCH級（中硬岩相当）に区分される。
8										
9										
10										
11										

孔内水位／測定月日：02/2? 2.55

標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
9	1.15	2	4	3	9/300		
13	1.45	4	3	6	13/300		
11	2.45	1	3	7	11/300		
136	3.45	33	17	10	50/110	110	
83	4.11	9	41	80	50/180	180	
250	5.18	50			50/60	60	
	6.06	貫入不能			50/0		

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験：原位置試験

削孔月日：2/14　2/15